

High-grade Serous Carcinoma can Show Squamoid Morphology Mimicking True Squamous Differentiation

友延, 寛

<https://hdl.handle.net/2324/7182330>

出版情報 : Kyushu University, 2023, 博士 (医学) , 課程博士
バージョン :

権利関係 : Public access to the fulltext file is restricted for unavoidable reason (2)



氏 名： 友延 寛

論文名： High-grade Serous Carcinoma can Show Squamoid Morphology Mimicking True Squamous Differentiation

(高異型度漿液性癌は真の扁平上皮分化を模倣した扁平上皮様形態を示しうる)

区 分： 甲

論 文 内 容 の 要 旨

卵管卵巣高異型度漿液性癌および卵巣類内膜癌は、腺管構造や充実性構造の共通する形態学的特徴を示すことがある。したがって、これらの組織亜型の鑑別診断は困難なことがある。類内膜癌はその特徴として“扁平上皮分化”を伴うことが知られている。“扁平上皮分化”の存在により高異型度漿液性癌ではなく類内膜癌と診断される傾向がある。我々は高異型度漿液性癌に“扁平上皮様成分”が含まれている可能性があることを見出したが、その性質については十分に研究されていなかった。したがって、この研究は、高異型度漿液性癌におけるこの“扁平上皮様成分”の頻度と免疫組織化学的特徴によってその性質を明らかにすることを目的とした。

卵巣卵管高異型度漿液性癌の初発未治療症例 237 例のヘマトキシリン・エオジン染色スライドを検討し、“扁平上皮様成分”を有する高異型度漿液性癌の 16 例 (6.7%) を特定した。免疫組織化学染色は扁平上皮マーカーの高分子サイトケラチン (CK5/6, CK14, CK903) と扁平上皮に感度特異度が高いマーカー (p40, p63)、高異型度漿液性癌のマーカー (WT1)、ホルモンレセプター (ER, PgR) を使用して、これら 16 例を分析した。また、対照群として“扁平上皮分化”を伴う卵巣類内膜癌の 14 例を選択した。高異型度漿液性癌の“扁平上皮様成分”は完全に p40 陰性であり、CK5/6, CK14, CK903、および p63 は類内膜癌の“扁平上皮分化”よりも有意に低い発現を示した。高異型度漿液性癌の“扁平上皮様成分”の免疫表現型は、典型的な高異型度漿液性癌成分 (WT1 陽性/ER 陽性) と一致した。さらに、“扁平上皮様成分”を伴う高異型度漿液性癌の 16 例は、高異型度漿液性癌の特徴である異常な p53 染色パターンおよび/または WT1/p16 陽性の所見があり、類内膜癌の特徴であるミスマッチ修復欠損および POLE 変異は認めず、真に“高異型度漿液性癌”であることが確認された。

高異型度漿液性癌はまれに“扁平上皮分化”を模倣した“扁平上皮様成分”を示すことがある。ただし、高異型度漿液性癌の“扁平上皮様成分”は、真の“扁平上皮分化”を表すものではない。“扁平上皮様成分”は高異型度漿液性癌の形態学的スペクトラムの一部であり、高異型度漿液性癌と卵巣類内膜癌の鑑別診断には“扁平上皮様成分”に関して慎重に解釈する必要がある。その際 p40, p53, p16、および WT1 を含む免疫組織化学パネルは、正確な病理診断に到達するための有用な補助手段である。

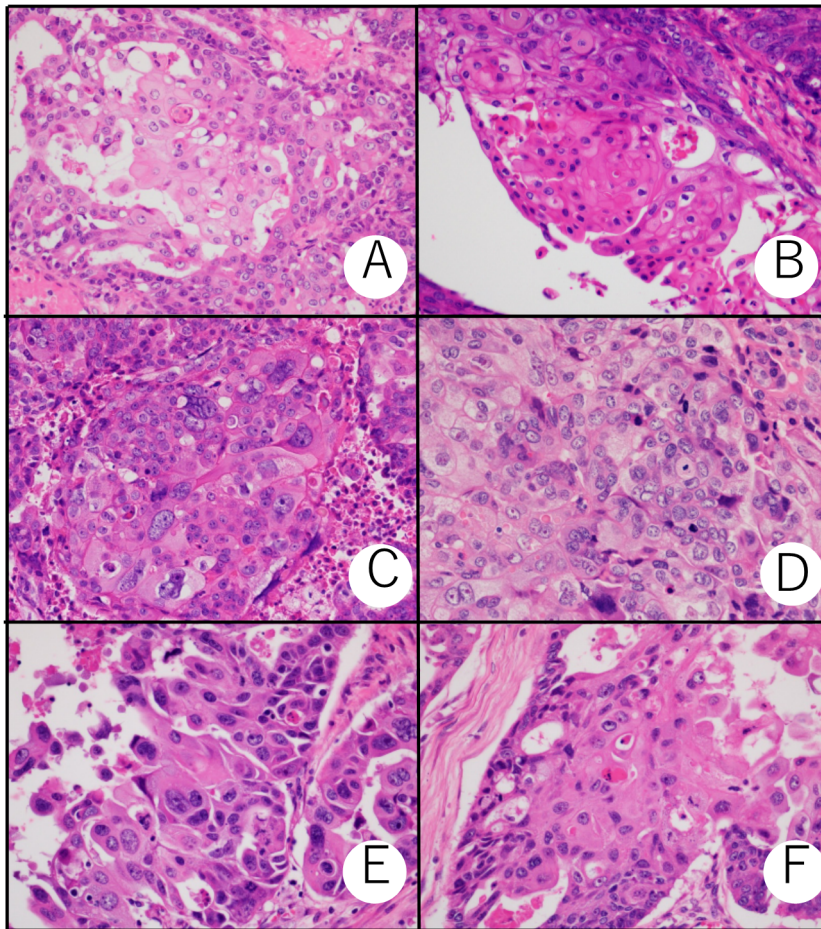


図 A, B) 類内膜癌における扁平上皮分化 (400 倍) C-F) 漿液性癌における扁平上皮様成分 (400 倍)
いずれも以下の扁平上皮分化の定義を少なくとも一つ満たす

- ・角化・細胞間橋
- ・以下の 3 つ以上の条件を満たす
 - 1) シート状増殖 (腺管形成や柵状構造を伴わない)
 - 2) 明瞭な細胞境界
 - 3) 好酸性で厚い硝子様の細胞質
 - 4) 同じ腫瘍内の他の部位と比較して核と細胞質比の減少

	高分子サイトケラチン	P40	WT1
高異型度漿液性癌における典型的部位	まれに陽性	なし	高頻度に陽性
高異型度漿液性癌における“扁平上皮様成分”	まれに陽性	なし	高頻度に陽性
類内膜癌における扁平上皮分化	高頻度に陽性	高頻度に陽性	まれに陽性

表 高異型度漿液性癌における典型的部位、高異型度漿液性癌における“扁平上皮様成分”と類内膜癌における扁平上皮分化の免疫染色パターンのまとめ